

第3回 通級指導者研修会 記録

平成29年6月3日(土) 9:30~11:30

スイトピアセンター6階 かがやき活動室1

スーパーバイザー

参加者(敬称略) 11人

『観察力を高めるために』

・気になった行動を見つけ、要因分析をしよう。

○本児のプロフィール紹介。

○30分間の活動の様子をビデオで見ながら、気になる姿をプリントに記入。

○感想交流

◆スーパーバイザーより◆

○チャプターごとに、「先生と子どもの関係性の視点から意見交流。」

例：～言うから・・・したのではないか。

～言ったから・・・できた。

こんないいところがあった。

①朝の準備【1:56】の場面

◆求めたら応じてもらった＝安心感。安心感の積み重ね＝愛着

◆子どものつまずきの原因を環境で作っていないか。

◆4歳の頃はおとなしかった。5歳になり、集団行動を求められるようになり、周りの子も成長してきた。あぶり出されるようになった。3～4歳のうちに、特性を持っていることが分かっているので、どうしていくとよかったのか。黙っているからよしとしない見方を。

②遊び【2:43】の場面

◆子どもの中に内発的動機づけが大切である。

◆通級のメリットは、その子に応じて、その子のためだけのカリキュラムを作ることができる。

◆活動と活動の中間に工夫の余地有り。

・困ったときに、「開けて下さい。」と言え、「ありがとう。」「一緒にやって。」などコミュニケーションの場にもなる。

◆ 訓練ではなく、遊びの中に自立の力をつける工夫ができる。

・理解言語はある子で、聞くと「うん」と表現できる。

◆ 伝えたいと言う気持ちになるよういかに工夫できるか。

(例：トイレの時、トトトとか、アアアとかでも OK。)

◆ 「子どもの目線にさがる」というが、要するに子どもが「先生、そうそう。」と思えるように。

③おはよう会【3：39】の場面

◆ 行動のみに着目するのではなく、何かの要因を見つけていく。

◆ よいクラス作りをすると、入りやすい。通級担当として、通常の先生方に、「いいクラスづくりをしているので、入れています。」とほめることができる。

◆ 先生が自分の思い通りにさせるのではなく、待つということが大切

④時計【2：39】の場面

◆ 自分の世界に入ることによって安心したいと思っている。時計にこだわることで、周りから遮断し、自分の世界にはいる。

◆ よく、常同行動をする子がいますが、自閉の子が生活していく上で必要な行動です。入り込むことで安心感を得ている「心の支え」なのです。

◆ クリームソーダを大事に運ぶ。遊戯室に入ったら、そこに置いて、中に入ることができる。自分の「心の支え」であることを理解してほしい。

最後に、スーパーバイザーからのご指導

◆ 「人は人でないと育たない。」環境（人・物）の中で育つ。カードも有効ですが、人と人の関係性が大切。

◆ 二段構えで、通級の先生にも理解してほしい。通常の先生にも理解してほしい。すぐに変わることは難しいけれど。

◆ 「手立て」を求められるが、子どもの行動には原因がある。要因を考えた上で、手立てを考えるように。深く探る見方をしていただきたい。

・子どもをどう見ているか。

・どうしたいと思っているか。

・子どもにどう言葉をかけたらよいのか。

これが基礎になる。